

行政視察報告

(会派 燦友会)

<視察目的>

・滋賀県近江八幡市

最新の VR 技術や新しい情報通信技術を使ったスマートフォンアプリを使い、観光客の誘致・拡大、新しい周遊ルートの構築などの事業を行っておられる近江八幡市を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

・大阪府八尾市

安来市議会における議会改革の課題の一つである予算委員会のあり方を検討するため、予算決算常任委員会を設置するなど委員会の機能強化に積極的に取り組んでおられる八尾市議会を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

・京都府綾部市

UI ターン者を呼び込む施策のひとつとして、空き家活用定住支援事業で成果を上げておられる綾部市を訪ね、様々な取り組みについて調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
11月14日 (水)	滋賀県近江八幡市	近江八幡市役所、安土城跡、安土城天主「信長の館」	・VR 安土城事業について ・観光アプリ「たびなび近江八幡」について ・安土城跡、安土城天主「信長の館」視察
11月15日 (木)	大阪府八尾市	八尾市役所	・議会改革について（委員会の機能強化） ①予算決算常任委員会の取り組み状況について ②その他の委員会の取り組み状況について
11月16日 (金)	京都府綾部市	綾部市役所	・空き家活用定住支援事業について

<視察概要報告>

1. 滋賀県近江八幡市

●対応部署：近江八幡市議会 副議長 中田 幸雄様
〃 議会事務局
近江八幡市 総合政策部文化観光課 課長補佐
〃 〃

●説明概要：

・VR（ヴァーチャルリアリティ）安土城事業について

最初にヴァーチャルリアリティ技術を活用し、幻の城・安土城の復元を行うことで、観光・文化振興などのひとつのツールとしてまちづくりに役立てたいというこの事業を始めた経緯についての説明がありました。そして2つの柱である「スマートフォン・タブレット型VR安土城」と「シアター型VR安土城」システムについて説明を受けたのち、平成22年度から今年度までの事業の経過と内容について説明を受けました。最後に今後の展開と課題等について説明がありました。

・観光アプリ「たびなび近江八幡」について

この取り組みのスタートは、平成26年度に市内12カ所にfreeWi-Fiを整備したことに始まり、これを活用して観光振興につなげたいということからでした。平成27年度の様々な取り組みを紹介していただき、平成28年度に市公式キャラクターなどを集めたり、英語の音声ガイドを提供したり、市内を回遊できるオリジナルスマートフォンアプリ「たびなび近江八幡」を製作したとのことでした。そのあと、市内への観光入込客数の推移などについても説明を受けました。

・安土城跡、安土城天主「信長の館」視察

市役所での視察テーマの説明・意見交換の終了後、幻の城・安土城跡に案内していただきました。そのあとシアター型VRが設置してある安土城天主「信長の館」に行き、館内を説明してもらい、シアター型VR安土城を視聴しました。最後に特別にコントローラーを使い、VRの操作体験もさせてもらいました。

<考 察>

○金山 満輝

日本の歴史上の人物人気ランキング（2015年インターネット検索数）を見ると、1位織田信長（246,000回）2位吉田松陰（135,000回）3位坂本竜馬以下徳川家康、徳川慶喜、沖田総司、高杉晋作、武田信玄、豊臣秀吉、石田三成、真田幸村、久坂玄



端、明智光秀、伊達正宗と続く。如何に織田信長の人生観また生きざまに人々が興味関心を持つバロメーターのようにも思えた。と同時に人間はないものを想える力 例えば

空間さえ想像することができる唯一の動物であるとも思える。VR「絢爛 安土城」は、発掘調査や研究資料に基づき安土城と家臣の屋敷、城下町をCGで再現し、鳥瞰図のようなインパクトでだれにも分かりやすく訴えるものがあつた。ただ近江八幡市観光入込客数の推移を見ると、日帰り客数は急増しつつも宿泊数はさほど変化なく、旧安土城地域よりその他の旧近江八幡地域へ日帰り客が移行しているのが、不思議な思いを感じた。

○遠藤 孝

VR（ヴァーチャルリアリティ）技術を使ったVR安土城事業やfreeWi-Fiの整備に合わせ始まったスマートフォンアプリ「たびなび近江八幡」は、これからの観光振興には欠かせないツールであることを改めて感じた。また実際に見たシアター型VR安土城は迫力があり、仮想現実とは思えないリアリティもあり、今後の安来市の観光振興にも大いに役立てることができると思った。

○作野 幸憲

安来市も観光産業には力を入れているが、観光客の誘致や観光客の周遊ルートの構築はうまくいっているとは思えない。安来市も足立美術館や月山富田城、清水寺など多くの観光地はあるが、これを結びつけるためには新しい情報通信技術は欠かせないものとなっている。安来市にも以前スマートフォンなどで活用できる観光アプリがあつたが、今はなく、今後制作が必要になると考える。今回視察で説明を受けた「たびなび近江八幡」は、様々な通信技術が使っており、技術の進化により、バージョンアップも随時しておられ、予算的にも参考にできる施策であつた。

また信長の館で実際に見て触つたVR安土城の高精度シアター型システムは、現存しない幻の城・安土城を大画面で体験することができるもので、月山富田城の観光振興にも使うことができるシステムだと痛感した。また歴史・文化の教育にも大いに役立つのではないかと思った。

2. 大阪府八尾市

●対応部署： 八尾市議会 副議長 大星 なるみ様
八尾市議会事務局 議事政策課 議事政策係 係長
〃 〃 〃

●説明概要：

・議会改革について（委員会の機能強化）

①予算決算常任委員会の取り組み状況について

まず従来の予算・決算の審査方法に説明を受け、特定の委員のみが決算を審査するなど課題が浮かび上がり、それを解決するため、議長を除く全議員で審査する「予算決算

常任委員会」を平成 27 年 3 月定例会より設置したとの経過説明等がありました。特徴的なものは、分科会方式をとっておられるところで、4つの分科会は4つある部門別常任委員会と同じメンバーで構成され、それぞれの分科会で質疑をすることでした。

②その他の委員会の取り組み状況について

委員会の機能強化のひとつとして、市長部局に対する監視機能をさらに強化するとともに、専門性を発揮した政策の提案や提言を目的として平成 25 年度より「常任委員会の所管事務調査」を開始しておられます。各常任委員会が所管する事務事業について、主体的にテーマを絞り、集中的に調査する取り組みです。調査の流れとしては、各常任委員会は年度ごとにテーマを絞ったうえで調査研究を行い、年度末に委員会としての調査結果報告を市長部局に提出し、これを受けて、市長部局には処理経過と結果の報告をしてもらうとのことでした。

<考 察>

○金山 満輝

安来市議会は平成 30 年 11 月より通年議会導入へと移行し、議会報告会でも取り組み状況について、説明をして参ったところでもある。議会改革には、これでベストだということはない。常に最善な議会運営を模索していかなくてはならない。大阪府八尾市は、市域面積 4,172 km²（約安来市の 1/10）、人口は 267,080 人。そうした土地柄もあったのか予算決算常任委員会が平成 26 年 12 月に第 5 番目の常任委員会として設置されていた。決算審査の日程比較を



すると、設置前審査期間が 4 か月 20 日間審査であったのが、2 か月 19 日間と審査が集中されている。八尾市議会には、各派代表者会議が設置されてはいるが、決定には全会一致の原則としてあり、全会一致にはかなりの時間を要すると考える。安来市議会も通年議会へと移行したばかり。議員懇談会をもって協議を重ねれば却ってスムーズかなと考えられた。

○遠藤 孝

○金山 満輝

綾部市は、昭和 25 年市制施行時人口 54,055 人が平成 30 年 9 月末には 33,773 人。少子高齢化に伴う人口減少は、少なからず全国地方自治体が共通して抱える難題でもある。綾部市では、定住促進・定住交流を市として最優先事項として定め、平成 28 年空き家バンク登録 77 件、空き家は農村部に点在するが、定住成立実績は全国 3 位と説明を受けた。

①定住相談ワンストップ窓口

定住希望登録者 756 人

②空き家流動化を促進させるための施策

空き家提供者への謝礼

③定住者を誘導するための施策

(イ) 改修費 (300 万円以内) で実施し、希望者へ賃貸。家賃は月 3 万円。

(ロ) 融資あっせん制度

(ハ) 宅建等事業者との連携

(ニ) 定住者宅への訪問活動等

定住者の年齢層には、30～39 歳台が 3 割を占める。行政の定住促進施策に安心感を抱いておられるのかなと一番に感じた。

○遠藤 孝

綾部市は定住促進を最優先事項として取り組んでおられ、その中でも「空き家活用定住支援事業」では、様々な施策を実行していて、大きな成果を上げておられた。印象的だったのが、説明の冒頭、社人研の最新人口データを示され、現状を素直に受け入れておられる姿勢だった。また都市計画区域の線引きを 5 年かけ廃止し、一層の定住促進につながるという徹底した方針にも市長の強い意欲が感じられた。線引き廃止については、非常に参考になった。

○作野 幸憲

綾部市は定住促進を 1 丁目 1 番地とし、様々な施策を推進し、成果を上げておられました。そのなかでも「空き家活用定住支援事業」では、空き家バンクから定住相談、就職・就農相談まで定住相談ワン



ストップ窓口で対応しておられ、実績を上げておられました。また空き家提供者へは10万円の謝礼を支払うなど、空き家の流動化を促進する施策も様々展開しておられました。お試し住宅も市内9カ所で行っておられ、今後は地域に関わらず増設予定のようです。また新たな定住施策の推進として、定住促進に足かせとなっていた都市計画区域の線引きを平成28年5月に市長の英断で廃止しておられ、徹底した定住促進策の実行に感服しました。安来市の空き家対策事業は、現在中途半端な状態だと思いますので、この綾部市の施策を十分参考にして取り組むべきと考えます。

以上